

古域

第 46 号

= 発行者 =

茨城県立江戸崎総合高等学校

同窓会広報委員会

TEL 029-892-2103

= 印刷所 =

倉沢印刷株式会社

ごあいさつ



同窓会長

山岡 恒夫

江戸崎高等学校

(昭和43年度卒)

会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様方の同窓会に對しましてのご理解ご協力に感謝申し上げます。能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様方にお見舞いを申し上げます。

江戸崎総合高校の生徒は、地域社会に素晴らしい貢献を続けています。

十月二十八日(土)には、江総の文化祭、江陵祭を一般公開で開催しました。母校の農場で生徒が栽培した野菜や草花等を販売しました。

稲敷警察署の花壇の整備をはじめ稲敷市役所、江戸崎シ

ヨッピングセンターパンプにきれいな花を飾っています。

十二月四日には、グリーンテクノ系列二年次生と、稲敷市青年農業者の方々と「いなしきアグリカフェ」を開催し、経験を踏まえた貴重な話しを聞くことができました。

夏の全国高等学校野球選手権大会は、地元の土浦日大高校が準決勝まで勝ち上がり盛り上がりでしたが、母校も健闘しました。茨城県大会の初戦では日立北高校に、十三本のヒットを打って、七対三で快勝。次戦では大会準優勝の霞ヶ浦高校に四対一で敗れましたが、大健闘で感動を与えてくれました。野球部は野球を通じて自主・自立・自治をできる人材の育成を目標に、日々練習に励んでいます。

「練習は不可能を可能にする」という小泉信三の言葉があります。習という字は羽の下に白と書きます。これはひな鳥が羽ばたいて飛ぶことを

習う形を表したものだということですが、ひな鳥は初め飛ぶことができない。羽を羽ばたいて幾度か繰り返しることによって空をかけることができるようになる。皆さんもスポーツで到底できないと思ったことがただ練習を重ねることによって可能になったという、非常に尊い体験をお持ちであろうと思います。練習によって不可能を可能にするという体験、これを私たちはスポーツによって得ることができます。

友を得る機会は人生の様々な場面においてありますが、スポーツの練習を共にした友、共に試合に出た戦友というべき友、あるいは敵味方となって争った相手の人々、それは生涯にわたり最も大切な友になりえるのであります。スポーツは、私たちに多くのものを与えてくれます。

江戸崎総合高校になって、今年は二十年目を迎えます。同窓会としても、開校二十周年に向けて準備を進めるとともに、しっかりと後輩達を応援していきたいと思えます。

江戸崎総合高等学校のますますのご発展と、皆様方のご活躍ご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

馬術部



部活動紹介

馬術は、動物とタッグを組みスコアを競う珍しいスポーツです。言葉の通じない中で信頼関係を築き、「人馬一体」という言葉通り、馬と共に乗り越えていく所が魅力です。

今年度も秋の新人戦を終えて、馬術部の一年を振り返る時期がやってきました。毎年、新たな発見があり、馬と向き合う生徒をはじめ、関係者のひたむきさに感心させられてしまします。関東大会・インターハイ出場(団体・個人)

においても、どの学校が優勝してもおかしくないハイレベルな争いの中で、生徒たちが競技はもちろん、競技場外でも決して臆することない精悍な振る舞いと礼儀の良さ、キビキビとした行動、マナーにおいても大会関係者、他校の先生方、選手の皆さんからも非常に評価が高く好意的に声をかけて頂いたこと、江戸崎総合高等学校馬術部をはじめ関東馬術チームが中心となり、大会を作り上げていたこと、数々の試合を通して高い意識を持って望めた生徒たち

であったと自負しています。

学校生活においても、明るく穏やかで誰とでも心を開き分け隔てなく協力して生活している姿、仲間を思いやる心の成長を拝見することが出来ました。進路に関しても、JRA就職や大学への進学、大会での好成績を望むだけでなく、そのエネルギーを進路にも活かすことができ、望みを實現しているのも事実です。

我が校の馬術部のメンバーはとにかく馬にはまっている仲間たちで、馬と共に日々受け継がれているつながりが若い芽を育てていることが特徴です。馬に乗るとまるで水を得た魚のように素晴らしいライディングが出来る事です。来年度はどんなサプライズがあるかと楽しみます。



ご挨拶



校長 川田 利行

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対して、多大なるご支援をいただき心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も第五類に移行し、学校における教育活動が以前のように行われるよう進めています。一方で、この期間で学んだことを活かして、新しいスタイルの活動が展開できることを標にしなが

ら取り組んでいます。今年度について振り返ってみますと、夏の高校野球は全校応援となり、生徒と教員の全員で校歌を歌うことができました。準備などに課題はありましたが、次年度は今年度よりもステップアップしていることを期待しています。

部活動についても、活動の制限を遵守しながら、子供達の成長を目指し、顧問が真摯に生徒をサポートしています。

江陵祭も以前のように一般公開を行いました。クラス紹

介動画、模擬店、ステージ発表、書道部をはじめとした文化部の発表、子供達の普段の授業では見ることのできない力を大いに感じることで嬉しくなりました。

修学旅行はインフルエンザの流行を乗り越えて、無事に終えることができました。現地では人との触れ合い、戦争の悲惨さ、自然の美しさ、友人の逞しさ、クラス仲間の温かさ等、その後の学校生活を楽しく送れる様な素晴らしい体験を味わえたと思います。

また、地元活性化の取り組みとして、「稲敷の魅力」発信プロジェクトを実施しました。グリーン系列で栽培したニンニクを使用し、地元業者の協力の下、「香り醤油にんにく」を製造し、東京銀座にある茨城県のアンテナショップにて配布しました。

同時に、生徒が作成した稲敷市の魅力をいっばいにつめたパンフレットも配りました。

わがまち「稲敷の魅力」を生徒もあらためて感じたことと思います。

本校は、次年度に江戸崎総合高等学校として創立二十周年を迎えます。百年以上にわたる伝統を引き継ぎながら、

園芸の思い出

副会長 根本 弘一
江戸崎高等学校 (昭和45年度卒)

地域活性化の一翼を担い、総合学科として地元で活躍できる人材の育成、地元から愛され続ける学校となるように努力していきます。

同窓会のみなさまには、これからもご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

昨今、江戸崎総合高等学校の名前が記されたプランターを見かけることがあります。市役所、警察署、ショッピングセンターパンプ、セブンイレブン、直売所等、そこかしこに置かれています。また寒々とした今の季節には色とりどりの花を咲かせているパンジーの花に心が和みます。

それと共に在校当時（五十年前以上前）の園芸実習で学んでいた頃のことを思い出されま



なっており、各種シンピジウムや花壇の手入れに勤しんでいる毎日です。在校当時に配られた深紅のバラは今でも麗な花を付け花壇の一角を華やかに彩っています。また、卒業記念に頂いた栗の苗木（筑波）も健在で幹回りが百七十二センチの立派な大木となりました。

さすがに実りは減りましたが、秋の味覚を味わう事が出来ます。

私の人生の中で、花木や草花を育てることが充足感をもたらし、心深く働きかける存在となったことは紛れもない事実であると感じられる今日この頃であります。

最後になりましたが、江戸崎総合高等学校の生徒の皆さんに対し、素敵なパンジーのプランターを各所に設置して頂いた事と、花を愛でることの幸せを与えて頂いた事に、心より感謝を申し上げます。

学び、そして今



大野 瑞季
江戸崎総合高等学校
(平成27年度卒)

高校を卒業し、早いものでもう八年になります。ホントに早いと感じます。

高校の頃はグリーンテクノ系列に進み、農業クラブで青春を謳歌していた気がします。友達と野菜を育てるのも楽しかったですし、先生たちと農業の話をするのも楽しかったです。もちろん、辛いことがなかったのか？と聞かれれば「NO」とは言えませんが、何しろ若かったので友達と衝突することもありましたし、適当にハイハイと言って



自分で背負いきれない責任を背負っちゃったりすることもありました。それでも潰れなかったのは当時、隣で背中を支えてくれた友達存在と「肩の力を程ほどに抜いてもいいんだよ。誰かに頼ることは悪いことではないんだよ。」と教えてくれた担任の先生でした。お陰様で今の私は人上手い具合に仕事を振り分けるという事を学びました。

未だに失敗がないわけではありませんが、「人には適材適所。出来る事をすればいいのだ。」とそう思えたのはとても大きな出来事だったと記憶しています。

そんな今の私は、農業従事者です。自分で育てた野菜を直売所や市場に出したりしています。農業は毎年、環境が変わるので知識のアップデート



トが欠かせません。天気や気温で作物の成長スピードも変わります。その年の場所によつては作物の出来次第で売れる量も全く違ってきます。

去年はたくさん売れたものが今年は全く売れなかったなんて事もあります。毎年、トラブルの連続です。思い通りにはいきませんが、毎年新鮮な気持ちを味わえます。

さあ、毎年新鮮な気持ちを味わいながら仕事してみたいと思っているそのあなた！農業、始めてみませんか？

最後に、我が母校、江戸崎総合高等学校、そして同窓会の皆様方の益々のご発展を祈念致します。

高校生活を振り返って



熊野 月乃
江戸崎総合高等学校
(令和2年度卒)

コロナの感染症法上の位置づけが「五類」に変わり、様々な施設への入場制限もなくなり学校行事もコロナ前の様な賑やかさを戻しつつあると思います。

高校生活では、書道や文化祭の有志など様々な活動をさせて頂きました。学業においては、分からない所を各教科の担当の先生に聞き、放課後に生徒何人かで残り、理解するまで勉強しました。学業や行事、部活動に対して諦めず熱心に取り組める環境を整えて下さっていた教職員の方々、理解出来るまで一緒に悩んで下さっていた教職員の方々に感謝しています。お陰で、大学に入った今でも学業や卒業論文などに諦めず、努力する事が出来ています。

私は、聖徳大学児童学科の児童心理を専攻しています。

入学当初は、心理学という学問についていけるのか不安でした。一年次はコロナ禍と

いうのもあり全面オンラインで学問の理解に苦しむ場面も多々ありました。二年次からはコロナが少しずつ緩和され対面授業となり友人と助け合いながら学業に励んでいます。聖徳大学では、子供の心だけでなく保護者や職員の方々の心のケアも行えるように勉強しています。聖徳大学に入学してから三年が経ちましたが毎日が新しい学びと発見続きで目まぐるしく過ぎる日々を送っています。

現在私は、卒業論文と就職活動に励んでいます。卒業論文では「心理的敏感さに対するレジリエンスの緩衝効果の検討」を元に研究を行っております。難しい所もありますが、自分で学びを深める楽しさを感じております。就職活動では、公立試験に向けて日々勉学に励んでいます。

自分自身の夢の為に高校時代に培った諦めない精神と努力を糧に勉学に励み、努力していきたいと思っています。

最後に、江戸崎総合高等学校と同窓会、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



同窓生の集い

二十五年ぶりの
同窓会



中澤 真人
江戸崎高等学校
(平成10年度卒)

何もないことからふとしたきっかけが始まり、アツという間に話しが進み、この様な機会を設けることとなり、幹事として当日集まってくれた皆さん、そして当時の担任だった片野先生に深く感謝申し上げます。

誰もがどのようにに対応するべきか途方に暮れてしまったコロナ禍の時期も峠を越し、今この時期を逃すと次はないと感じ、どの様に事を進めるべきか模索しながら今回のクラス会を開く事にしました。

この様な機会を設けることにより、自分の恵まれた友人関係も、改めて素晴らしいものだなと感じました。

思った以上に多くの仲間が集まり、高校生だったあの頃の思い出話に大いに盛り上がり、アツという間に楽しい時間が過ぎました。



自分が幹事でこのクラス会を開催する事になるなど、当時は全く思ってはなく、今回みんなと会えたことはかけがえない経験となりました。

今回のクラス会では笑いが絶えず、四十を過ぎての現在の状況、感じていることなどを付度なしに腹を割って語り合えるのは、このような場に参加しなければわからない感情だと思っています。この会報誌を読んで下さる皆様に同窓会の良さを押しつけるつもりはありませんが、この様な会を設けて参加し語り合えたことは、これからの人生に大いにプラスになると強く感じました。

また、今回この会を開くにあたりアドバイス頂いた江戸崎総合高校同窓会事務局にこの場をお借りして御礼申し上げます。最後に、同窓会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



あの頃のままで



吉田恵美子
江戸崎西高等学校
(昭和52年度卒)

一九七五年(昭和五十年)春麗らかな日、私たちは江戸崎西高等学校の第五期生として入学しました。あの頃のうら若き私たちは今や立派な年代となりました。

あの頃、インターネットも携帯電話さえもない時代、今思えば相当不便な時代だったと思います。それでも、私たちは青春ど真ん中である高校生活を、今の高校生よりも密に過ごしていたのかもね。そして数十年・・・時間の経過は非情にも気力・体力・お金・残された時間さえも減らしていく、増えたのはお肌のシワだけかも、なあって思っちゃいます。でも、久しぶりに会えた級友たちは、



色んな経験や試練を乗り越え素敵な大人になってました。年明け間もなくで、みんな何かと忙しいとは思いましたが、集ってみれば十年の時間が過ぎてすぐに打ち解け合い、思い出話に大いに盛り上がりました。

あの頃高校生だった私達はそれぞれに刻を重ねました。そして、これからお互いに素敵な時間を積み重ねていくことと思います。そう、江戸崎西高生であつたあの頃のままで。

年次だより

一年間を振り返って

一年次主任

松下

友美

四月、真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで入学許可を受けてから、早いもので一年が過ぎようとしています。期待と不安を胸に入学した生徒たちが、今では学校にも慣れ、授業や部活動、アルバイトなどに励んでいます。

一年次では、「産業社会と人間」の授業を通し、自分について考え、二年次からの系列について学んできました。具体的には、系列説明会や系列体験会、系列別バス見学会を実施し、二年次以降の学びについて、さらには将来に向けての展望について、考えることが出来たのではないのでしょうか。

また、同時に「自分を知る」ことも大切です。あなたはどんな人ですか？みんなそれぞれが違った個性を持っています。他者を理解し、自分と同じところ、違うところを発見していけば、他の人とは違う「自分」を見つけ出す事が出来るのではないのでしょうか。

新二年次生

二年次主任

篠崎

美穂

みなさん、こんにちは。二年次主任の篠崎です。年々、「若い」を感じる今日この頃ですが、生徒たちに負けずにエネルギーッシュにバタバタしております。

あつという間に時が経ち、十一月には沖縄方面への修学旅行も無事終わることが出来ました。参加した生徒の中には、平和について考えることができた、沖縄に移住したいと話していた生徒もいました。修学旅行を見合わせた生徒も稲敷市をPRするために東京の銀座にある茨城県アンテナショップにて宣伝活動をしてきました。どちらの活動も普段の生活では経験できない内容で、とても貴重な時間になったと思います。

さて、高校生活も折り返し地点を過ぎました。生徒たちは学校生活にも慣れ、検定試験や資格取得、模試などに力を入れている生徒も多数見られるようになりました。部活動については二年生が中心となって精力的に活動しています。そしてこれから生徒のみなさんは進路を見据えた「人

生設計」を考えなくては

けません。来年には成人を迎える生徒もいます。責任が伴う年齢です。子供と大人の間で難しい時期になりますが、私たち大人が良き理解者となり、職員一同、そして保護者の皆様と協力してお子様の成長を見守りたいと考えています。私も二人の娘をもつ母親です。保護者の皆様の子供に對するお気持ちは察します。家族だから出来る事、学校だから出来る事を一緒に考え、共にお子様の道しるべになりませんか？

今後も活力ある地域づくりを担え、活躍出来る人材の育成を目指してまいります。

当たり前が当たり前前に

三年次主任

水田

久雄

皆さんにとって、三年間の高校生活は長かったでしょうか。それとも、アツという間だったのでしょうか。

一日は長くとも、一年間はアツという間だったのではないのでしょうか。

この三年間、年次目標として掲げてきたことは、「当たり前が当たり前になる」その事だけでした。当たり前とは何か、学校のルールを遵守

し生活出来ることでした。その上で次のステップに自らの意思のもと進むことでした。次に進むためには、どのような場が用意され、その場に進むためには今何をしなければならぬかを考え、実行することでした。皆さんは、挨拶を含めた礼儀は出来ていました。また、学校生活もほとんどの生徒は問題ありませんでした。ご家庭での躾がしっかりとされていることが窺えました。本当にありがたいことです。社会に出てからも引き続きルールは遵守してほしいと願います。

さて、コロナウィルスの影響で高校生として当たり前前の行事など入学直後は出来ませんでした。二年次になり、ようやく修学旅行などの普通の高校生活を取り戻すことができ、三年次の時には、江陵祭（学校祭）を一般のお客様に来場していただき、開催することが出来ました。そして、たくさんの方の笑顔を見ることが出来ました。「当たり前前にできること」がいかに「幸せなこと」なのか皆さん実感されたのではないのでしょうか。これから先、一人ひとりが「自分らしく」生活することが出来るよう願っています。

校内だより

江戸崎

力人(ちからびと)

渉外部長

檜垣 健一

昨年まで続いていたコロナ禍は終息を迎え、今年度は、いよいよ様々な活動がスタートを始めた年でした。

四月の入学式から始まり、五月のPTA総会、六月はクラスマッチ、七月には高校野球の全校応援。秋の江陵祭では、四年ぶりの一般公開となり、生徒も先生もPTAもタッグを組み、すべて一からの新たな経験をしていく年になりました。PTA役員の皆様の熱量、チームワークが良く、アイデア沢山、溜まったものを吐き出すように、打ち合わせから大いに盛り上がり、笑顔の活動になりました。先生達の配慮があった事も忘れてはなりません。コロナ禍の自粛期間に「何とか生徒達に本来の行事を体験させてあげたい」、アイデアを駆使しながら前へ、前へと進めてきたしぶとさが、今年度の盛り上がりや生徒一人一人の表情に現れ、今後の活動を大き

く飛躍させるものになると納得解を得られたスタートが出来たのではないのでしょうか。スマホやタブレットを駆使しての動画やLINEを活用し、新たな表現技術、方法、情報連絡体制もスツキリしました。

来年は江戸崎総合高等学校創立二十周年を迎えます。

「生徒たちが喜ぶ活動支援とは?」「生徒たちの安心安全な生活サポートを」変化の大きい日々を送りながらも、できる限り進歩しながら、学校現場や各家庭で抱える問題について、子どもを取り巻く大人たちで共有し、共に考える場をつくること。「保護者と学校がすべての子どもたちの『人としての成長』を一緒に追い求めていること」PTAの皆さんと気持ちを一つにしています。

最後になりますが、今年の卒業生を加えた同窓会の皆様のご健勝を祈念しましてご挨拶とさせていただきます。



今年度の学校行事

特別活動部長

大滝 慶人

今年度は新型コロナウイルスも第五類となり、引き続き感染症には気をつけながらではありますが、通常の学校行事を運営することが出来ています。

六月にはクラスマッチを年次ごとに三日間に分けて行いました。午前はバドミントンとボッチャというパラリンピックで採用されているスポーツを実施しました。優勝チームと先生チームで行ったエキシビジョンマッチは、練習を重ねてきた生徒チームが勝利し、大いに盛り上がりました。このスポーツは運動が得意・不得意に関わらず参加できるスポーツなので多くの



生徒がコミュニケーションを取りながら楽しんでいる様子が印象的でした。午後は団体種目として、大縄跳び、綱引き、リレーを実施しました。各クラス一致団結し競技に参加したり、クラスの応援をしたりと素晴らしい雰囲気でした。



七月には全校野球応援を実施しました。今年から声を出しての応援が出来るようになり、在校生にとっては初めての経験でしたが、それぞれが澁刺とプレーする選手達に声援を送っている姿が印象的でした。野球応援は全校で一つのことに取り組むことが出来る数少ない行事です。



全員が江戸崎総合高校の一員として力になりました。初戦を見事に突破し、次戦では準優勝した霞ヶ浦高校に必死に食らいつき、一対四で惜敗したものの、本校の応援団はもちろん、一般の方々も感動するナイスゲームでした。

十月には一般公開をしての江陵祭(文化祭)を四年ぶり

に開催しました。四年前を経験した教員が少ない中で、特別活動部も各クラスも試行錯誤しながらの立案・準備となりました。グリーンテクノ系列の農産物販売には長蛇の列ができ、地域の方にも喜んでいただけたことと思います。

また、昨年に引き続きキッチンカー（五台）を導入し、生徒達の作る販売物に加えて、提供する飲食の幅を広げる試みを行いました。

キッチンカーの方にも「生徒さんたちの振る舞いが素晴



らしく感動しました。呼んでいた大きさがとうございまして。」とお褒めの言葉を頂きました。

その他にも十一月の生徒会選挙や稲敷市青少年の主張大会、一月の後期クラスマッチなどの行事の運営・参加をしています。どの行事も普段の学校生活では見られない生徒の活躍や笑顔がありました。これからも、このような生徒の思い出に残る学校行事を企画・運営をしていきたいと思っています。

生徒一人一人のために

生徒指導部長
中水 佑

一昨年度より生徒指導主事の大役を仰せつかりました。教員人生十年目を迎えた若輩者ではありますが、諸先輩方、保護者や地域の皆様方、そし

て同窓会の方々のご指導ご鞭撻を頂きながら、試行錯誤の日々を送っております。

本校に赴任して五年目となりますが、赴任当時と比べましても、世の中の変化や、コロナ禍も重なり、生徒の実情や、取り巻く環境の変化を大きく感じております。

本年度は少しずつではありますが、行事や集会なども通常通り開催することが出来るようになりました。

その中で、生徒が充実した学校生活を送りながら、自立し、一社会人として自信を持つて卒業することが出来るような教育活動にあたる必要性を、日々強く感じております。

今後、前身の江戸崎高等学校から数えると百年以上の歴史を誇る本校の伝統や教育理念を継承しながらも、我々教職員が時代の変化を敏感に察知しながら、生徒が卒業後、それらの変化に対応することが出来るように、多種多様な視点を持つて教育活動に取り組んでいきたいと考えます。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

進路状況報告

進路指導部長
栗山 季幸

新型コロナウイルスの流行により、一時求人数が減少しましたが、ここ三年間は前年比で約一・二倍の求人を頂くことができ、ほぼコロナ前の求人数に回復しました。

結果については、

学校紹介による就職希望者が一回目では七十五名が受験して内定者は六十七名でした。就職内定率は八十九%となり、昨年度より5ポイント高い状況になっています。また、その後の試験で七名の内定を頂きました。まだ就職活動中の生徒もおりませんが、卒業までに就職希望者全員の内定を目指しております。

進学については、進学希望者が四十名いますが、四年制大学に八名、専門学校に二十四名が合格しました。まだ推薦入試や一般入試を控え

た生徒は合格に向け受験勉強に励んでおります。

今年度は、コロナ明けの進路活動となりましたが、結果を検証して、これからの進路指導に活かしていきたいと考えております。

最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念すると共に、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

二〇二三年度 進路状況

主な進学先	主な就職先
植草学園大学	飯島電気工事
常磐大学	江戸崎共栄工業
中央学院大学	王子コンテナ
桜美林大学	金乃台カントリークラブ
麗澤大学	ケアセンター阿見
日本ウェルネススポーツ大学	SHOEI 茨城工場
茨城県立土浦産業技術専門学校	城東テクノ
大原簿記法律専門学校	水郷荘
国際馬事学校	つくばセントラル病院
国際トラベルホテルライダール専門学校	DNP データテクノ
スカイ総合ペット専門学校	テックプラス
筑波医療福祉専門学校	東洋シヤッター
つくば栄養医療調理製菓専門学校	中村屋
筑波研究学園専門学校	日本中央競馬会
筑波保育医療専門学校	ネスレ日本
つくばビジネスカレッジ専門学校	パナソニックSPT部品
辻調理師専門学校	日立建機
土浦看護専門学校	フジシール 筑波工場
東京電子専門学校	ブリマハム
東京ビューティーアート専門学校	水戸信用金庫
日本工学院八王子専門学校	他三六社
他二校	

(二〇二三年十二月十四日現在)

二〇二三年の
グリーンテクノ系列と今後
グリーンテクノ系列主任
立木 厚

今年の夏は例年になく猛暑で、気象庁は令和五年九月一日に夏の天候のまとめを発表しました。それによると全国的に平年を大きく上回り、一八九八年から統計を開始した日本の平均気温偏差は過去最高を記録したそうです。

この猛暑の影響は全国各地で顕著となり、野菜や果実の生育不良や価格の高騰を招きました。

本校においても大きな影響を受けました。例年では八月後半から秋の作物栽培の準備(播種、育苗)が始まりますが、あまりの高温により九月になつてからの準備開始となりました。その結果、文化祭で提供する野菜が間に合わなという状況になりました。

しかし、この遅れは秋から冬にかけ、遅れた恵みをもたらすものと期待を込めて生徒と一緒に守ってきましたが、今度は暦の上では秋なのに夏日が続く、本来、気温の低下により作物の生育スピードが緩やかになっていくはずが、逆に速くなり十月末から順に

採れる予定だった作物が次々と重なるように収穫期を迎えました。

自然相手にあの手この手で工夫をこらし、計画に乗せて進めていくことの楽しさ反面、農業の難しさ、授業に沿った作物栽培のバランスを考慮しながら農業教育を実践していくことの難しさを肌で感じた年でした。

一方でグリーンテクノ系列を選択した生徒達は、誠実かつ生き生きと楽しそうに植物栽培や食品製造などの学習に励んでいました。

グリーンテクノの学びは教室で理論を学び、ほ場や製造室でそれを試す。文章や口頭で語れば、その程度かも知れませんが、見えない部分には、科学的なものの見方や、道具や資材の取り扱い方、作業の段取りや経営的な視点によるものの考え方、あるいは仲間とコミュニケーションをとりながら共同して学習や実習を進めていく姿があります。

このような日々の学びの積み重ねで主体的・対話的で深い学びが実現され、生徒達は成長していくのだと思います。

これからもグリーンテクノ系列では実践的・体験的な学

習活動を中心に学びを深め、さらに農業関連産業や関連機関等との協力を進めるなどを行い、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標に、学習活動を進めてまいります。

結びに、これからも末永く、同窓会皆様方のご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

香り醤油にんにく



自慢の一品

グリーンテクノ系列栽培コースの三年生が、実習授業で育てたニンニクが六月に約三十二キロ収穫出来ました。

その中の不揃いのものを有効活用しようと食品コース二年生が、醤油約百七十五cc入りの瓶にニンニク約十五グラムを漬け込みました。

十一月、東京の銀座にある茨城県のアンテナショップ「IBARAKI Sense (イバラキセンス)」で約百本を無料配布しました。

令和六年度事業計画(案)

校内幹事会	随時
本部役員会	七月下旬
本年度事業について	
本部役員会	十一月下旬
会報誌編集委員会	
本部役員会	一月下旬
会報誌編集委員会	
同窓会入会式	二月下旬
卒業記念品贈呈	二月下旬
会報誌「古城」第四十七号発行	二月下旬
本部役員会	三月上旬
会計監査	三月下旬
同窓会代議員総会	三月下旬

お願い

皆様には、日頃より同窓会活動にご理解・ご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。毎年発行しております会報誌『古城』も同窓会会員及び学校関係者の皆様のおかげで、第四十六号となりました。今後も会報誌『古城』を通して、会員の皆様との繋がりをより一層深めていければと思います。

今後皆様のお気付き、ご意見・ご要望等を頂きたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。

本 部 役 員

編集後記

二〇二三年、またまたスポーツ界は大盛り上がりを見せてくれました。三月のWBCでの侍ジャパンが、三大会ぶり三度目の優勝をしました。

映画でも無いような展開に、日本中が盛り上がりつつ随分と興奮させられました。と思つたら、日本のプロ野球でも阪神タイガースが十八年振りにリーグでの「アレ」を決め、日本シリーズでは一九八五年以来三十八年振りとなる二度目の日本一になりました。

スポーツに限ったことではありませんが、懸命な姿勢・行動に人は心動かされるのだと改めて思いました。